



カンタベリー補習授業校

# 学校だより

第5号

令和7(2025)年7月22日 発行

校長 蛭名 博人

## ちがうからこそ



## うまれる ハーモニー



7月19日(土)の2学期始業式にこんな話をしました。

「みんなの好きなもの、得意なものは何ですか?校長先生は音楽が大好きでいろいろな楽器を演奏するのが得意です。今日はちょっとみんなに聞いてもらいたいと思います。

これはリコーダーという楽器です。日本の学校では小学校3年生から習うので、演奏したことがあるよ、見たことがあるよ、という人もいますよね。また、リコーダークラブの皆さんが、授業が始まる前と放課後に楽しく活動していますね。

見てください。いろんな種類があります。ちょっと吹いてみます。このように、似ているようでも一つ一つが違います。それぞれがいいですよ。この違った楽器が集まるとこうなります。リコーダークラブの4人のみなさんちょっとお手伝いお願いします。

♪ パッヘルベル「カノン」 アンサンブル ♪ (拍手)

違った音が重なることで、きれいなハーモニーができるんです。美しい響きができるんです。4人の皆さんありがとう。

みんなも同じです。みんなは一人一人が違います。みんな違ってみんないいんです。そして、その違ったみんなが集まることで、豊かなハーモニーが生まれるんです。だから、みんなが頑張っている英語と日本語、ニュージーランドと日本の両方の勉強をしていること、これはとても素敵なことなんです。2学期も、お互いの違いや良さを認め合い、みんなで楽しく勉強していきましょう。

引き続き児童集会を行いました。集会では児童生徒会役員が楽しいクイズを用意し、子供たちは楽しそうに集会に参加していました。

さあ、2学期のスタートです。

保護者委員はじめいろいろな係として、保護者の方々に支えていただいています。本当にありがとうございます。



子は親の鏡

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる  
 とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる  
 不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる  
 「かわいそうな子だ」と言て育てると、子どもは、みじめな気持ちになる  
 子どもを馬鹿にすると、引つ込みじあんな子になる  
 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる  
 叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう  
 励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる  
 広い心で接すれば、キレる子にはならない  
 誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ  
 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ  
 認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる  
 見つけてあげれば、子どもは、頑張り屋になる  
 分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ  
 親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る  
 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ  
 やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ  
 守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ  
 和気あいあいとした家庭で育てば、  
 子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

(『子どもが育つ魔法の言葉』ドロシー・ロー・ノルト、

レイチャル・ハリス著 石井千春訳 PHP 研究所)

私は1994年からチェコのプラハ日本人学校に派遣され、そこで3年間の海外生活を送りました。私と妻、1歳半になる長女3人での初めての海外生活。私は希望しての赴任でしたが、正直に言いますと、妻や両親、親類の不安は大きいものでした。そしてもちろん長女には「行かない」という選択肢はありませんでした。その長女は3年目には日本人の全くいない現地幼稚園に通い3人の中で一番チェコ語を理解できるようになりました。結果的にその3年間は何にも代えがたい素晴らしい経験となったのですが、それが彼女にとって本当に良いことなのか悩みが付きなかったことも事実です。しかし、プラハでこの詩と出会うことで「大切なことは世界共通なんだ」と思うことができ、勇気づけられたのです。(ドロシー・ロー・ノルトはアメリカの学者ですが、この詩(1954)は世界中に広がり、日本では上記より出版されています)

あれから30年。私は長女を筆頭にその後生まれた長男次男計3人の子育てをしました。3人の子の親として、そして子供たちと向き合う教師として、悩んだときにいつもこの詩を読み返しました。では、この詩のとおり親でなければいけないのか？ そうでなければ親失格？…。だったら私は恥ずかしながら父親失格かもしれません。

でも、みんな悩んで子育てをしています。完璧な親なんて、どれほどいるでしょう。元千代田区立麴町中学校長の工藤勇一氏は著書「子どもが生きる力をつけるために親ができること」(かんき出版)の中で、この詩を引用しながらこう呼びかけています。

『目指したいのは子供も親も幸せになる子育て』

この詩の姿を理想に、でも決して焦ったり諦めたりせず、「子供も親も幸せになる子育て」を目指していきましょう。ここニュージーランド・クライストチャーチで。ともに。